

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.58をお届けいたします。



FMD
OWNER'S CLUB



8月のTOPICS

■ 無症候性の冠動脈アテローム性動脈硬化症の重症度と血管内皮機能の関連



～ Harbor-UCLA Medical Center からの報告～

ユネクスEFシリーズは世界で唯一のFMD専用検査装置として、日本以外でも欧米やアジア各国で使用されております。海外の先生方からも弊社の装置を使用した論文が発表されていますが、今回、Harbor-UCLA Medical Centerから論文が発表されましたのでご紹介致します。

内皮機能障害とアテローム性動脈硬化は、複数のメカニズムによって関係しています。上腕動脈FMDは、内皮機能を評価するために使用され、心血管疾患と独立して関連しています。上腕動脈FMDと冠動脈CTA(CCTA)による無症候性アテローム性動脈硬化症の重症度との関係は明確になっていません。今回、上腕動脈FMDがCCTAによる無症候性アテローム性動脈硬化症の重症度と逆相関しているという仮説を立て試験を行いました。

上腕動脈FMDとCCTAによる無症候性アテローム性動脈硬化症の重症度の関連を調べるための、中等度の心臓リスク保有者と非定型的胸痛症状を伴う100名の患者を対象とした後ろ向き研究です。多変量線形回帰分析を使用して、上腕動脈FMDと冠動脈カルシウムスコア(CAC)、Segment Involvement Score(SIS:狭窄の度合いによらず冠動脈16部位におけるプラークの有無をスコア化したもの)、Segment Stenosis Score(SSS:冠動脈を16部位毎にプラークによる狭窄の程度に応じ、0(プラークなし)、1(軽度)、2(中程度)、3(重度)の点数をつけ、スコア化したもの)、およびトータルプラークスコア(TPS)の関係を評価しました。

対象患者は、52名(42%)が女性で平均年齢は59.3±10.4歳でした。従来の危険因子を調整した後、上腕動脈FMDは、CAC、TPS、SIS、SSSと有意に逆相関していました(すべて $p < 0.05$)。FMD < 4.5は、CAC > 0および ≤ 100 の存在を最も効果的に予測し、感度62.2%、特異度66.7%でした(AUC = 0.5729、 $p = 0.0302$)。FMD < 2.7は、CAC > 100を最も効果的に予測し、感度34%、特異度83%でした(AUC = 0.6226、 $p = 0.0095$)。

上腕動脈FMDは、CCTAによる無症候性アテローム性動脈硬化症の存在と重症度に独立して関連しています。我々の調査結果は、全身性内皮機能障害のサロゲートマーカーであるFMDが、CCTAおよびCACによって評価された無症候性アテローム性動脈硬化症と有意に関連しているという結果を示します。

今回の結果から上腕動脈FMDが、無症候性アテローム性動脈硬化症患者や心血管リスクが低い患者の評価に用いることが可能であるということを示唆しています。

出典：Atherosclerosis. 2020 Jun;302:15-19.

■ 第84回日本循環器学会学術集会にてWeb展示会が開催中です

第84回日本循環器学会学術集会Web展示会が10月30日正午まで開催中です。弊社はCOVID-19と血管内皮機能に関する動画を中心に展示公開しています。是非Web展示会へのご来臨をお待ち申し上げます。

動画はこちらからもご視聴いただけます ⇒ <https://unex.co.jp/covid.html?id=01>